

流山市補助金等審議会会議録（第3回）

- 1 開催日 平成23年7月5日（火）
午後2時から
- 2 場所 流山市役所第1庁舎3階庁議室
- 3 出席委員 柴委員、前田委員、山口委員、伊藤委員、
松本委員、西村委員
- 4 欠席委員 廣田委員
- 5 事務局 安井財政調整課長、秋元財政調整課長補佐、
加藤臨時職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議題

（1）平成23年度既存補助金のヒアリング（1日目）

対象課：リサイクル推進課、企画政策課、人材育成課、健康増進課、コミュニティ課、選挙管理委員会事務局、社会福祉課、障害者支援課、高齢者生きがい推進課

（2）その他

8 配付資料

（1）平成23年度既存補助金審等審査表

（伊藤会長）ただいまから、第3回流山市補助金等審議会を開催いたします。

本日の会議は、出席6名、欠席1名ですので、会議は成立していることをご報告します。

なお、あらかじめ報告申し上げますが、流山市では、「審議会等の会議の公開に関する指針」を策定し、審議会等の会議は原則公開とする旨規定しておりますことから、本審議会も公開といたしますので、あらかじめご了解いただきたいと思います。

本日は、平成23年度既存補助金審議のヒアリングを行います。

前回、ヒアリング対象としました37件の補助金のうち、本日は、別紙審査票にありますとおり、9課、12件の補助金等についてヒアリングを行います。

はじめに、事務局から審査票について説明等をお願いします。

【事務局から審査票の説明】

(伊藤会長) それではヒアリングを開始します。

【ノーレジ袋エコポイント付与助成金】

【再生資源物回収事業奨励金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後に、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【リサイクル推進課 説明】

(松本委員) 再生資源物回収事業奨励金についてですが、算出基準の単価は書いてありますが、回収重量が書いてないので根拠がわかりません。

(リサイクル推進課) 平成22年度実績は、ビン、缶両方で8,482.18t回収し、87,593,354円の奨励金となります。

(西村委員) この活動をしたことにより、ごみの減量に寄与しているのですか。

(リサイクル推進課) 寄与しています。流山市の一般廃棄物の燃えるごみ、埋め立てに行く燃やさないごみ、ビン、缶、布、紙などの資源物、なるべく排出量を減らさなければなりませんし、燃やす量も減らすため、燃やすごみの中に入っている物を資源化してリサイクルし活用することが、減量になります。日本は資源がないので、ごみの中の資源を回収し奨励金を出して資源化率を上げていこうという考えです。

(西村委員) 奨励金の予算は毎年同じ位で推移するのですか。

(リサイクル推進課) だいたい、この位の推移です。景気が低迷すると消費が落ちてきます。そうすると、ごみの排出量が減ります。排

出量が減ると資源物も減ります。景気が良くなると排出量が増え、資源物も増えます。ごみの発生量は社会の景気に左右されます。流山市は毎年2千人位ずつ人口が増えていますので、総排出量は増えていくと思います。

(西村委員) 回収業者は5業者位あると思いますが、競争して単価を落とすような考えはありますか。

(リサイクル推進課) あえて競争は、させていません。

(西村委員) どういうかたちで業者を決めているのですか。

(リサイクル推進課) 昔、廃品回収をしていた5業者が資源物回収業者となっています。

(西村委員) 独占的になってないですね。

(リサイクル推進課) なっていません。これ以上増やすと過当競争になり、つぶし合いになってしまうので、5業者位が丁度良いかと思えます。増えても後2者位かと考えます。

(山口副委員長) 回収業者は市内の業者ですね。

(リサイクル推進課) そうです。

(山口副委員長) 回収業者の収入は考えていますか。

(リサイクル推進課) 集めるコストはかかりますが、紙問屋等に売って儲けを出しています。

(山口副委員長) 奨励金の単価に加味していますか。

(リサイクル推進課) 奨励金の金額は少しずつ上がってきています。

紙類、金属類はいい時もあれば、悪い時もあるので、今現在はこの程度でいいかと考えます。

(山口副委員長) 柏市、松戸市と単価比較していますか。

(リサイクル推進課) 流山市は高いです。

(松本委員) 自治会はキロ8円もらっていますが、その差額が業者に行っているのですか。

(リサイクル推進課) いいえ、奨励金は5業者に払い、自治会へは別に報奨金としてキロ8円払っているのです、補助金の対象は業者への奨励金です。

(伊藤会長) 市によっては、燃えるごみ、燃えないごみを一緒に回収する市がありますが、焼却施設等のコストを考えているのですか。

(リサイクル推進課) 燃えるごみ、燃やさないごみ、資源ごみの分別

はどこの市でもやっております。

(伊藤会長) 以前住んでいた福岡市では、ビニールも可燃ごみに混ぜてもいい焼却施設だと聞いています。

(リサイクル推進課) 各市によって多少違いますが、東京都ではプラスチックを燃やして、熱量を電気に変えるサーマルリサイクルをしています。流山市では、プラスチックは再生するため分別しています。

(伊藤会長) 焼却施設のコストの問題では、ないのですね。

(リサイクル推進課) そうです。分別することにより、ごみの発生量が少なくなります。

(伊藤会長) ありがとうございます。

【国際交流協会活動事業費補助金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【企画政策課 説明】

(前田委員) NPO になり、次年度からは補助金はなくなると理解してよいのですか。

(伊藤会長) NPO に決まるのはいつですか。

(企画政策課) 事務局は4月の総会で移転しました。事務局として動いたばかりですので、今年度1年間は補助金が出ますので、その中で側面から支援をするのが役目だと思っています。NPO 化に向けて動いています。

(山口副会長) 国際交流協会の他にプロポーザルに応募する団体はありますか。

(企画政策課) 国際交流団体が他に1団体あります。応募は NPO に限

定せず自立した団体であれば可能です。

競争相手がいなければ、随意契約になりますが、他にも声をかけて競争の原理を働かせていきたいと思えます。

今は職員の人件費相当分が国際交流の事業に費やされていますが、事業自体を見直していこうという考えです。

(伊藤会長) ありがとうございます。

【職員互助会補助金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【人材育成課 説明】

(前田委員) 事業の内容は何ですか。17年度は補助金がありませんが、なぜですか。

(人材育成課) 平成17年度に補助金がゼロになった詳しい経過は把握していませんが、おそらく基金として積み立てていた為余裕があったと思われます。現在、基金につきましては、職員が減っている状況のため、団体保険の手数料事業や駐車場の斡旋事業の歳入部分が減り、基金を取り崩しています。

派遣事業職員体育大会に100万円補助金を頂いています。福利厚生事業として、福利厚生事業をやっている民間の会社ベネフィットワンに委託金850万円を支払い、その内補助金の400万円を充当しています。

(前田委員) 職員の健康に関するメンタルヘルスを事業として打ち出すなど、体育大会派遣だけでなく、職員一人一人が恩恵を受けるかたちをとった方がより充実した福利厚生になるのではないのでしょうか。

(人材育成課) 以前は職員旅行等に補助金を頂いていた時代もありましたが、今は福利厚生ベネフィットワンという会社の中で自分の趣味等を選んでいくというかたちになっています。

(山口副会長) 市としてメンタルヘルス対策をしていますか。

(人材育成課) 互助会としてではなく、人材育成課健康増進係がメンタルヘルス関係で心と体の健康チェックをしています。

(松本委員) 収支状況を見ると毎年多くの繰越金があるようですが、補助金500万円必要ですか。

(人材育成課) 繰越金は毎年300万円ほど下がっています。22年度の繰越金は380万円ありましたが、今年度でなくなると思われ、再来年はマイナスになるという予測になります。

(前田委員) いろいろな事をしているのですよね。限定して支出するという書き方になっていますが。

(人材育成課) 貸付、慶弔等もやっています。給付の方に補助金が入っているかと誤解を受ける部分があるので、事業は絞って話しました。

(山口副委員長) 職員のモチベーションの低下は、市政全体に影響していきますので、防がなければならないと思いますので、どういうものに補助しているのか、事業中身を整理して説明して頂ければ納得できます。

(伊藤会長) ありがとうございます。

【健康づくり推進員協議会補助金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後に、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【健康増進課 説明】

(松本委員)健康づくり推進員は何人ですか。

(健康増進課)健康づくり推進員は平成20年度は42名いましたが、現在は公募してもなかなか集まらず21名です。推進活動実績の人数は市民の参加を含めた人数です。

(松本委員)この活動は大変熱心にやっており、健康都市宣言しているのにもかかわらず、35万7千円の少ない予算でやっていますね。会費も払い、予算も少ないので、活動しても疲れるだけなので推進委員が離れていくと聞きました。

(健康増進課)推進員の方には、地域と行政のパイプ役という役割を担っていただいています。

(山口副会長)推進員に謝礼金を払っていますか。

(健康増進課)個人には年間12,600円の報償費を支払っています。

(山口副会長)23年度の実行プランでは、事業委託の方向性を今後検討することとしたいとありますが、市の事業としての位置付けを考えているのですか。

(健康増進課)表現が悪くなかったのかもせれませんが、推進員の人数が減って、地区別の活動が拠点型の事業に推移せざるをえない状況にある中で、健康講座、調理実習等は地区社協や公民館活動でも類似の事業があり、その整理を考えなければいけないという意味です。委託という表現は誤解を招きました。申し訳ございません。

ちなみに柏市も同じようなかたちで健康づくり推進員の連絡協議会を設置しています。市の規模は違いますが、柏市は347人の推進員がいて、補助金額は127万6千円です。仕事の内容等推進員の方と議論していく必要があると思っています。

(山口副会長)参加されている方が体質改善になった等のデータが出てくると事業の効果が目に見えてくるように思います。

(健康増進課)利用された方の声を把握していきたいと思っています。

(伊藤会長)ありがとうございました。

【地域まちづくり協議会補助金】

(伊藤会長)本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後に、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【コミュニティ課 説明】

(前田委員) 前回答申でD評価でしたが、市が実施するということになりました。にもかかわらず22年度はなぜやらなかったのですか。

(コミュニティ課) 22年度については、9月以降に事業展開ができず、まちづくり協議会というものはどういうものなのか審議する時間に当て、1年先送りになりました。

(前田委員) 当時の疑問が解消されて、今回出てきているという理解でいいですか。

(コミュニティ課) まちづくり協議会がどういうものか確立されていなかったで、自治会、NPO、地区社協等既存の団体を尊重しながら意見交換の場を設け、地域の課題の解決策を自ら考えていく場、意見交換の場もしくは情報共有の場という位置づけからスタートするモデル地区になります。

(前田委員) 既存の自治会、地区社協を傷つけてまで、一つに括ろうとするような、まちづくりは反対です。

(松本委員) 最初に提案された時は防災と防犯位しかないと思いましたが、防災と防犯も173ある自治会の中でほとんどの所がやっています。自治会は、活発でない所が多いとかやり手のない所が多いとか最初に言われると173全部そうなのかと、そうではありませんので、とんでもない話に聞こえます。

まちづくり協議会を小学校地区でつくった時に社協との関係がどうなるのか、社協が弱いから、こういう話しがでてきたのですか。自治会から抗議文を出した所がありますし、前回、審議会でもD評価でした。ところが、行政は委員が何を言おうが出来上がってしまいました。どこから出た話なのか分かりません。

(コミュニティ課) 子どもやお年寄りが通える範囲が小学校区エリア

ではないかと思えます。美田自治会のように良いものは波及していき、情報交換意見交換の場をまちづくり協議会として推進していききたいと思えます。自治会、各団体の活動は尊重していきながら、良い情報は提供してもらい、困っている事は解決できるような協議会を考えています。

(西村委員) 二重構造になるのではないですか。

(コミュニティ課) 選定したモデル地区の中から解決策を見つけていきたいと思えます。

(西村委員) 行政として困っている事があるから出てきたのですか。

(コミュニティ課) 各自治会が高齢化になり役員を抽選、輪番で行っているところがあり、南流山地区は加入率30%という課題をかかえております。その解決策はないかと、小学校区で、コミュニティ審議会からの答申も尊重し、エリアごとの自治会だけでなくNPO等新しい活動団体を踏まえ、新しく構築できないかという試みです。

(伊藤会長) 今やっている自治会に理想論が出来ればいいのですが、コミュニティ課を中心にまちづくりをし、市として財政資金の投入が膨大化しませんか。

(コミュニティ課) このまま補助金というものを考えると大きなものになってしましますが、交付金にし、エリアで自立の考え方をしたいと考えています。

(山口副会長) 50万円はモデルケースで、15地区に拡大すると、50×15になるのですか。

(コミュニティ課) あくまでも運営ではなく、事業に対する補助です。今は探り合いの状態なので、50万円が膨らんでいくか頭打ちになるかです。

(前田委員) 市は本気でやろうとしているのですか。

(コミュニティ課) 今年2つモデル地区が検証期間ということになっています。来年は2、3手が上がりそうな所があり状況把握しているところです。半分は5年を目途に設立させていきたいと考えています。

(山口副会長) 自治会活動の活発な所と先ほどの加入率30%の所のバランスはどうするのですか。

(コミュニティ課) 加入率30%の南流山地区、高齢化になっていく

江戸川台地区、それぞれの地区で問題が違います。それを協議するのがまちづくり協議会です。

(山口副会長)地域のまちづくりの効果は発揮できますか。

(コミュニティ課)正直分かりませんが、次におおたかの森を考えています。おおたかの森は、新しい人達の比率が多くなっていき、大きな題材が駅周辺にあり、協議を投げかけています。

(前田委員)マンションが出来て、新しい人達ばかりなので作り易いでしょう。

(コミュニティ課)マンションは管理組合があり、自治会にするか別問題ですので、その辺を解決する為の協議会も考えます。

(前田委員)前回のヒアリング時から改善されていないので、疑問を感じます。

(松本委員)日立市を見学してきましたが、15自治会のうち高齢化した所が4、5あり、自治会活動が出来ないので協議会をつくって委託した為、自治会費と協議会の活動費を払う事になり、コスト高になります。流山は、自治会の未加入者、自治会費を納めない人の問題の方が先だと思えます。協議会は馴染めません。

(伊藤会長)次に流山市民活動団体公益事業補助金について説明をお願いします。

【コミュニティ課 説明】

(松本委員)イメージがわからないので、例を出してもらえますか。

(コミュニティ課)流山街並み会という活動団体は、自然と生活環境が共存する流山の街並みの魅力を案内する事業で、例えばガーデニングしている目印、千葉大の学生が考えた風車を地図に添付しているのが街並み会で、色々なコラボレーションをしています。そこにみどりの課がタイアップしています。

温暖化防止流山が美田自治会とCO2削減事業の展開をしています。

(伊藤会長)ありがとうございました。

【流山市明るい選挙推進事業補助金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【選挙管理委員会事務局 説明】

(伊藤会長) 質問はありますか。

(山口副会長) 投票率はどうなっていますか。

(選挙管理委員会事務局) 21年8月30日衆議院選挙の流山市の投票率が69.37%でした。その前の17年9月衆議院選挙は67.61%で1.76ポイント上回る結果が出ています。投票率は、近隣と比べて比較的高い方です。今回の市長市議選、東北の震災があり、啓発活動を自粛した経緯があります。その中でも市長市議選は、前回よりも1ポイント位低い値でした。

(前田委員) 補助金24万円と協議会の年会費で何ができますか。

(選挙管理委員会事務局) 明るい選挙推進協議会の負担金、先進市の視察代でバス代等を補っています。自治会の回覧板を選挙管理委員会事務局と明るい選挙推進協議会の共同で作り、選挙の投票を呼びかける内容や3ない運動の絵や文字を表した物を表裏に印刷し、昨年100枚作り、今年80枚作る予定です。長くもつ物でPRするという発想です。その他に費用のかからない啓発を考えています。

(柴委員) 負担金とは何ですか。

(選挙管理委員会事務局) 明るい選挙推進協議会の団体は、国の財団法人明るい選挙協会があり、その下に千葉県の明るい選挙推進連合会があり、その下に東葛9市組織している団体があり、そこに負担金を支払っています。毎年1回ある県の連合会の研修に9千円位の負担金を支払っています。

(伊藤会長) ありがとうございます。

【社会福祉協議会事業費補助金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後に、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【社会福祉課 説明】

(前田委員) 社会福祉協議会は民間団体ですが、現実には市から膨大な補助金があり、市のOBが働いていて、なぜ社会福祉協議会だけ人件費が認められるのか。厚生労働省関係の審議会や研究会では、社会福祉協議会が半官半民であるので改革しなければならないと議論しています。前回の答申でも改善をすべきであるとしましたが、今回どう努力されたかお聞きしたいです。OBは何人いますか。

(社会福祉課) 21年度22年度は市のOBは2名です。

(前田委員) 常務理事の行政出身者はいますか。

(社会福祉課) 理事会、評議委員会については分かりません。

(前田委員) 職員が派遣され、役員の中にも行政経験者がいれば、民間になっても半分は市の行政となんら変わらないのではないですか。

(伊藤会長) 期間も40年以上で長く、補助金も5千8百万円で大きい、重要性は分かりませんが、後日資料を出してください。

(松本委員) 20、21、22年の貸借対照表と損益計算書を出して下さい。福祉だよりに決算書が出ますが、小さすぎて読めません。

総人数の推移も出して下さい。市がやるべき福祉、福利厚生がそっくりこちらにしているのではないですか。補助金は3年が原則だと言いながら42年もやっているのは、過剰に市の仕事を持っているという事はありませんか。

社協が活発な活動をしていないから、まちづくり協議会の話が出たのではないですか。

(伊藤会長) 後日、資料のご協力をお願いします。ありがとうございます。

した。

【身体障害者福祉会補助金】

【手をつなぐ親の会補助金】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【障害者支援課 説明】

(前田委員) 前回の答申によって改善された点を知りたいのですが。

(障害者支援課) 高齢によって活動が不能になり脱会される方が最近目立ってきましたので、会員募集のチラシを作って各公共施設に置き、新規の会員を拡大しようと努めています。

(西村委員) 会員というのは、どういう会員ですか。

(障害者支援課) 個人、個人が集まって組織されている団体です。

(山口副会長) 事業収入は伸びていませんが、何故ですか。

(障害者支援課) あくまでも紹介者が集まった団体ですので、なかなか収益事業は実施出来ない状況にあります。収入の多くは、会費、補助金、寄付金で成り立っている団体です。

(松本委員) 身体障害者福祉会の中に肢体部会と視覚部会と2つだけですか。

(障害者支援課) はい、2つの部会が存在します。

(松本委員) 自閉症児者親の会、障害者福祉ボランティア団体、身体障害者福祉会の3つをばらばらの予算で管理しないと上手くいかないのか疑問です。

(障害者支援課) 障害によって団体が別々になっていきますので、一緒には出来ません。

(伊藤会長) 市役所の喫茶室や作業所は収入にはならないのですか。

(障害者支援課) 次の手をつなぐ親の会と関連があります。

(伊藤会長) ありがとうございます。

【 障害者支援課 説明 】

(障害者支援課) 市役所の喫茶室アモールですが、当初、手をつなぐ親の会が始め、現在経営は、社会福祉法人まほろばの里が引き継いでいます。初石公民館にあるものも同じです。

(伊藤会長) ありがとうございます。

【 シルバー人材センター補助金 】

(伊藤会長) 本日は、お忙しい中を、ヒアリングに出席いただきありがとうございます。

始めに、補助金について、「公益性」、「公平性」、「必要性」、「効果」、「適切性」や過去3年間で行った改革を中心に5分程度でご説明下さい。

その後、私たちから質問を行いたいと考えております。

それでは、お願いします。

【 高齢者生きがい推進課 説明 】

(事務局) シルバー人材センターには国の補助金が入っていますので、訂正させていただきます。

(伊藤会長) 国・県補助金等の有無が有という事で資料の訂正お願いします。

国・県補助金等のあるものは議論の対象外でしたが説明をしていただきましたので、質問はありますか。

(松本委員) 23年度補助限度額770万円と書いてありますが、22年度880万円補助金収入がありますが、どうしてですか。

(高齢者生きがい推進課) 国の仕訳等の中でシルバーの補助金を減らしていくという方針が出され、年々減ってきています。平成23年については、国が770万円となりました。市としては、シルバーの

現状を考え平成23年度は、前年並みの880万円になりました。

(伊藤会長) 個人的な意見ですが、深刻な若年者雇用をさて置いて、と感じられますが。

(高齢者生きがい推進課) シルバーは安い賃金で請け負っている為、民業を圧迫しているという考え方もあります。特に植木の剪定、襖の張り替え等は、その事業者の方から民業の圧迫ではないかと指摘を受けた事もあります。それについては、国の調査では、住み分けを考えていけば共存が可能ではないかと言われており、検討課題ではありますが、共存していけるのではないかと思います。若年の方に関しては、シルバーとの接点は、それほどないと考えています。

(伊藤会長) ありがとうございました。

(伊藤会長) 次回は、7月12日火曜日2時からとさせていただきます。

これで第3回補助金等審議会を終了したいと思います。ありがとうございました。

午後5時15分解散